

## 海外オーケストラシリーズ



トゥガン・ソビエフ  
©Erik Weis

DEUTSCHES  
SYMPHONIE  
ORCHESTER BERLIN



神尾真由子  
©Shion Isaka



グスターボ・ヒメノ

ROYAL  
CONCERTGEBOUW  
ORCHESTRA



ユジャ・ワン  
©James Cheadle



アンドレス・オロスコ=エストラーダ  
©Martin Sigmund

RADIO  
SINFONIE  
ORCHESTER FRANKFURT



アリス=紗良・オット  
©Marie Staggat

## 旬の若手指揮者と名門楽団の共演を聴く！

オーケストラ・コンサートは、缶詰ではなく、生ものである。

上り坂にある実力派の指揮者と名門楽団がつくり出す、果てしない感動の世界へ！

### 次代をリードする指揮界のホープたちが登場

ベルリン・ドイツ交響楽団(1946年創立)は、初代首席指揮者フリッチャイのもとで幅広い演目をレコーディングしており、その後、マゼール、シャイーが首席指揮者を務めた楽団である。1993年にベルリン放送交響楽団から、現在の名称になった後も、その鮮やかな合奏能力と幅広い対応力で、高く評価されている。2012年に音楽監督に就任したソビエフ(1977年生)は、ロシアの北オセチア出身。すでにポリショイ劇場の音楽監督とトゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団の首席指揮者も兼任している売れっ子で、近代の作品では、原色的な色彩感を活かしつつ、濃厚に音楽をうねらせるなど、ドラマティックに音楽を形づくることのできる才能の持ち主である。今回の公演では、ドイツ・オーストリア音楽の王道を往く作品で、オーケストラからどのような響きを引き出してくれるのか、大いに期待したい。神尾真由子がメンデルスゾーンの名曲でソリストを務めるのも楽しみである。

ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団(1888年創立)は、半世紀にわたって楽団を率いたメンゲルベルクの後、ペイヌム、ハイティンク、シャイー、ヤンソンスが首席指揮者を務めた名門中の名門である。2016年からは、ガッティが首席指揮者に就任するが、今回の公演で指揮台にのぼるのは、スペイン・パレンシア生まれのヒメノである。2001~2013年にこの名門楽団の首席打楽器奏者を務めたヒメノは、2014年1月にキャンセルしたヤンソンスの代役として大成功を収めたキャリアの持ち主であり、2015年からルクセンブルク・

フィルの首席指揮者に就任する注目株だ。芳醇でクオリティの高いサウンドを誇るロイヤル・コンサートヘボウ管の特質を知り尽くしたヒメノが、ロシアの作品が孕んでいる熱いエネルギーを見事に解き放ってくれることだろう。名のある指揮者を無難に据えるのではなく、かつての仲間を選んだ名門楽団の心意気にも期待したい。人気沸騰中のユジャ・ワンが、滅多に実演では接することができないチャイコフスキーのピアノ協奏曲第2番に挑む点も要チェックであろう。

フランクフルト放送交響楽団(1929年創立)は、ヘッセン放送交響楽団と名のついていた時期に、フルトヴェングラーが指揮台にのぼったりもしたが、その楽団名が世界中に轟いたのは、インバルが率いていた時代(1974~1990年)に行ったブルックナーとマーラーの交響曲全集のレコーディングによるのである。楽団が培って来た鮮烈な表現能力は、折り紙付きだ。2014年までパーヴォ・ヤルヴィ(現在は桂冠指揮者)が率いた後、オロスコ=エストラーダ(1977年生)が首席指揮者に就任して、新たな時代の幕が上がりに、高く評価されているだけに、当コンビの演奏に早くも接することができるのはうれしい限りである。コロンビア生まれで、ウィーンで研鑽を積んだオロスコ=エストラーダは、オーソドックスなアプローチを踏まえながら、音楽をフレッシュに息づかせることができる手腕の持ち主だけに、今回取り上げる演目にも興味尽きない。アリス=紗良・オットがチャイコフスキーの名作のソリストとして登場するのも期待大である。

文:満津岡信育(音楽評論)

#### ベルリン・ドイツ交響楽団

10月30日(金) 19:00開演  
コンサートホール

指揮:トゥガン・ソビエフ ヴァイオリン:神尾真由子  
管弦楽:ベルリン・ドイツ交響楽団  
シューベルト/劇音楽『ロザムンデ』D.797 序曲  
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲  
ベートーヴェン/交響曲第7番

#### 富士電機スーパーコンサート

ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団  
11月12日(木) 19:00開演  
コンサートホール

指揮:グスターボ・ヒメノ ピアノ:ユジャ・ワン  
管弦楽:ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団  
チャイコフスキー/ピアノ協奏曲第2番  
交響曲第6番「悲愴」

特別協賛:富士電機株式会社

#### フランクフルト放送交響楽団

11月19日(木) 19:00開演  
コンサートホール

指揮:アンドレス・オロスコ=エストラーダ  
ピアノ:アリス=紗良・オット 管弦楽:フランクフルト放送交響楽団  
グリムカ/歌劇『ルスランとリドミラ』序曲  
チャイコフスキー/ピアノ協奏曲第1番  
ブラームス/交響曲第1番

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

#### 東京芸術劇場 Presents

## クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会

指揮:有田正広 フォルテピアノ:仲道郁代

ソロコンサートマスター:豊嶋泰嗣

### 明暗も鮮やかな3曲! 大きな拍手で暑気払い

交響曲の第1楽章が終わったところで、拍手をしかけたことがないだろう。当方は実際、手を叩いたことがある。古典派の交響曲の冒頭楽章は、拍手を誘うような終わり方をする。それもそのはず当時は、必ずしもすべての楽章をいっぺんに演奏していたわけではなく、楽章間に協奏曲や声楽曲を挟んで、バラエティー豊かなプログラムを組んでいた。

そんな古典期の習慣とは少し様子が違うけれど、このたびのクラシカル・プレイヤーズ東京(以下CPT)の演奏会も、交響曲を「枠」として、その間にピアノ協奏曲を置いている。当時の演奏会の楽しさが伝わってきそうなプログラム。元気いっぱいの祝典曲「ハフナー」の第1楽章には、ふだんなら抑えてしまうはずの拍手を、大いに送ってほしい。

その拍手の後にももちろん、聴きどころは控えている。仲道郁代さんが自

身の楽器、1816年製のブロードウッド・ピアノで、ベートーヴェンの協奏曲第3番を弾く。この楽器の威力は、独奏ピアノが登場するところから、早くも発揮されるだろう。音域を変えつつ同じ音階を3回、駆け上る。音域によって音色の異なる古典鍵盤楽器が、この部分の意義をいっそう深めてくれるはずだ。

1780年代、1800年代と続いた演奏会は後半、1830年代へと進む。メンデルスゾーンの交響曲「イタリア」の登場だ。それに伴ってオーケストラも装いを少し変化させる。たとえば弦楽器の弓や管楽器のキー。それが管弦楽の響きをどのように変えるのか。そんな愉快な視点を与えてくれるのは、オリジナル楽器の楽団CPTならではの。明暗の対比も鮮やかなプログラムを、暑気払いとして楽しみたい。

文:澤谷夏樹(音楽評論家)

詳細はP9へ

#### 7月12日(日) 15:00開演 コンサートホール

指揮:有田正広 フォルテピアノ:仲道郁代 管弦楽:クラシカル・プレイヤーズ東京 ※豊嶋泰嗣(ソロコンサートマスター)

モーツァルト/交響曲第35番 二長調「ハフナー」K.385 から 第1楽章 ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第3番 八短調 op.37  
メンデルスゾーン/交響曲第4番 イ長調「イタリア」op.90

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

## ロシア国立交響楽団

指揮:ヴァレリー・ポリャンスキー

### 生き続ける本場のチャイコ、28年ぶりに来日

世界各地の有名オーケストラがグローバル化する中、20世紀の伝説的演奏を彷彿とさせるサウンドを残しながらも、個性的な音楽を聴かせるロシアのオーケストラ。独特の感情を豪快に、さらには繊細に描き出す演奏は、彼らの言葉であるロシア音楽を演奏してこそ最高のレベルへと達する。だからこそ、本場の香りを湛えた演奏を聴きたいと願う聴衆も多いだろう。

かつて名指揮者ロジェストヴェンスキーが率いたソヴィエト国立文化省交響楽団は、厚重かつ硬質な響きでショスタコヴィチの交響曲などを演奏し、ロシア/ソヴィエト音楽ファンに圧倒的な印象を与えた。ソ連崩壊後には合唱団を併設した「ロシア国立シンフォニー・カペラ」として生まれ変わる。ロジェストヴェンスキーの後継者であるヴァレリー・ポリャンスキーが芸術監督に就任。その「カペラ」のオーケストラが「ロシア国立交響楽団」という

わけだ。

このオーケストラが28年ぶりに来日して、しかもチャイコフスキーの3大名作交響曲(第4番・第5番・第6番「悲愴」)を一気に聴かせるというのだから驚く。ポリャンスキー指揮によるさまざまな作品はCD(CHANDOSレーベル等)でリリースされており、その情緒豊かな音楽作りに魅了されているファンも多数。しかし、やはりその真価はライブに接してみないとわからないだろう。

チャイコフスキーが心の友であるメック未亡人に「私たちの交響曲」と贈った第4番、ロシア文学にも通じる「運命・宿命」の音楽として名高い第5番、そして感慨深い遺作となってしまった第6番「悲愴」。ぜひ、心が揺さぶられる「イッキ聴き」の体験を!

文:オヤマダアツシ

詳細はP10へ

#### 7月18日(土) 14:00開演 コンサートホール

指揮:ヴァレリー・ポリャンスキー 管弦楽:ロシア国立交響楽団

チャイコフスキー/交響曲第4番 へ短調 作品36、交響曲第5番 ホ短調 作品64  
交響曲第6番 口短調 作品74「悲愴」

主催:サンボアリス  
提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)



有田正広  
©Hikaru Arita

仲道郁代  
©Kiyotaka Saito